# YASARA チュートリアル タンパクーリガンド・ドッキング計算

(株) アフィニティサイエンス

**概要**: YASARA Structure(Version 18.4.24)によるタンパク - リガンドのドッキング操作をチュートリアル形式で説明 する。本チュートリアルでは、アルツハイマー病の発症に関与すると考えられるアミロイドβタンパクの産生およ び凝集性を決定する酵素β-site APP cleaving enzyme 1 (BACE1)の複合体構造 (PDB ID:5I3V)を用いて、リガンド の再ドッキングを実施する。

# 1. ドッキング準備

#### 1.1 作業ディレクトリの作成と YASARA (GUI)の起動

ドッキングを実施するにあたり入出力ファイルを格納するディレクトリ(フォルダ)を新規に作成する(Windows で はエクスプローラ、Linux では mkdir コマンド等を使用)。作成場所やファイル名は任意で問題ないが、YASARA 上で表 示が乱れるため、日本語を含まない方が好ましい。

例

(Windows)C:¥Users¥username¥Desktop¥YASARA\_DATA¥tuto\_docking(Linux)/home/username/YASARA\_DATA/tuto\_docking

その後、YASARA (GUI) を起動する。

「Options」→「Working directory」を選択し、先ほど作成したディレクトリを指定し作業ディレクトリを設定する。

# 1.2 PDB ダウンロードと構造表示

「File」→「Load」→「PDB file from Internet」を選択し、「5I3V」を入力、PDF ファイルをダウンロードすると、画面 上にタンパク 3D 構造が表示される。

※インターネット未接続の場合、PDB ファイルを別途入手し、「File」→「Load」→「PDB file」等から構造を読み込む。 「View」→「Style scene」またはファンクションキーで分子の表示方法を変えることができる。本チュートリアルでは、 「Ribbon」(F6 キー)に設定している。



Figure 1.1 PDB ファイルのダウンロード

# 1.3 ドッキング前処理① (クリーニング・不要分子削除)

解析のため、「Edit」→「Clean」→「All」を選択して、PDB 構造のクリーニング処理(欠損原子・水素付加、結合次数の調整など)を行う。



Figure 1.2 Clean 処理による水素分子(白球)の付加

続けて、レセプター(タンパク)とリガンド(低分子)以外の不要なものを取り除くため、メニュー「Edit」→「Delete」 →「Molecule」を実行して、水分子(Waters)および不要分子を削除する

(今回は、上から1番目と3番目の Molecule のみを残し、その他は削除する)。



Figure 1.3 Delete の実行 (Ctrl キー+クリックで複数選択が可能)

### 1.4 ドッキング前処理②(分子名変更・オブジェクト分割・ドッキングセル設定)

画面右側 HUD の Molecule 名("Mol"に続く部分)がデフォルトではすべて"A"になっているため、それぞれの Molecule を右クリックして「Name」を選択し、適当なものに変更する。本チュートリアルではレセプターに"R"、リガンドに"L" と設定した。名前はアルファベットー文字のみ選択可能(大文字・小文字別)。



Figure 1.4 Molecule 名の変更

この段階では同じ Object の中にレセプターとリガンドが含まれている状態のため、別々の Object に分割する。 画面右側 HUD の Object (5i3v) を右クリックして、「Split」を選択、Center の設定は好みのほうを選択し、「Split at all molecules」をクリックする。(本チュートリアルでは、分割後の Objects が同じ (ローカル)座標系を持つ「Do not Center ~」を選択する。もう一方の「Center the newly created objects ~」を選択すると、幾何中心がそれぞれのローカル座標の 原点と一致するように新規オブジェクトがシフトされる。)

	<u>S(</u>	CEN	E CO	NTENT		<u>S</u> (	CENE	<u>= co</u>	NTENT
<u>Obj</u>	Name	Vis	Act	Atom	<u>Obj</u>	Name	Vis	Act	Atom
1	•5i3v	Yes	Yes	1	1	-5i3vR	Yes	Yes	1
	MOL R	No	Yes	1		-Mol R	No	Yes	1
	MOLL	Yes	Yes	5767	2	5i3vL	Yes	Yes	5767
2	•••••	No	No			-Mol L	Yes	Yes	5767
3		No	No				No	No	

Figure 1.5 Split 処理による Object の分割

結合ポケット付近にドッキング範囲を指定する。画面右側 HUD のリガンド Object (5i3vL)を右クリックし、「Select」 →「newly」を選択することでリガンドを選択状態にする。次に「Simulation」→「Define simulation cell」を選択、「around selected atoms」をクリックすることでリガンド周辺にドッキング範囲(SimCELL)が出現する。 ※SimCELL の設定を省略する場合、タンパク全体を対象としたドッキングが実施される。

9		Define simulation	on ce	200	×
Set size automa	atically:	Extend		around <u>a</u> ll atoms.	5
and the		5.0 A 💙		around selected atoms.	Ľ
Set original PD	B crysta	allographic cell:	C	Select CRYST1 record.	$\mathcal{I}$
Use size and an	gles sp	ecified below:		All hards	
<u>X</u> -size		<u>Y</u> -size	R	<u>Z</u> -size	1
62.20 A	Ŷ	131.42 A	Ŷ	74.51 A	Ŷ
Alpha	5	<u>B</u> eta	-	<u>G</u> amma	
90.00 o	÷	90.00 o	Ŷ	90.00 o	÷
Ce <u>n</u> ter	5		P	Q	:

Figure 1.6 SimCELL の定義

# 2. ドッキング実行

YASARA でドッキングを行うには、GUI から直接ドッキング解析・条件設定を行う簡易的な方法(①)と、マクロを用いて実行する方法(②)の二つの手段がある。ドッキング結果の解析機能等の観点から、後者のマクロ利用が推奨されているが、2つの手法について紹介する。

# 2.1 [方法①]簡易手法

# 2.1.1 力場設定

ドッキングを実行するには力場の設定が必要になる。「Simulation」→「Force field」を選択し、力場を選択して、「OK, and if ~ parameters」をクリックする。(本チュートリアルでは AMBER03 を選択)

9	Select molecular dy	namics force field	×
Eotte field: • AMBER03 • AMBER10 • AMBER11 • AMBER12 • AMBER14 • AMBER14IPQ • AMBER94 • AMBER94	<ul> <li>Force field ter</li> <li>Bond</li> <li>Angle</li> <li>Dihedra</li> </ul>	ms       Image: Planarity       Image: Planarity       Image: Coulomb       Image: Van der Waa	Speed Fast Normal als Slow
OK, and if a force	e field is selected ab	ove, also set its defa	ault parameters
Set these two pa	rameters instead: ME for <u>l</u> ongrange el	C <u>u</u> toff 10.50000 A lectrostatics	•

Figure 2.1 力場設定

### 2.1.2 ドッキング Experiment 実行

「Options」→「Choose experiment」→「Docking ligand to receptor」を選択し、「Proceed with experiment」をクリックする。 まずレセプターを指定 (5i3vR)、次にリガンドを指定 (5i3vL)、そしてドッキングプログラム (VINA)、条件 (例 Docking runs = 10, Cluster RMSD = 5.00A)、出力ファイル名 (任意)を指定して「OK」をクリックするとドッキングが開始される。



Figure 2.2 ドッキングシミュレーション実行中画面



Figure 2.3 ドッキングシミュレーション計算終了画面(結合エネルギーのスコアが高い順に並べられている)

#### 2.2 [方法②]マクロファイルを利用する方法

ドッキング計算の実行に当たっては、パラメータやコマンドが記述されたマクロファイルを読み込んで自動的に実行 する方法も存在し、現行版ではこちらを使用することが推奨されている。マクロを利用する場合、リガンドとレセプタ ーそれぞれの構造ファイルを準備する必要がある。以下ではソフトウェア付属のドッキング計算用マクロファイルを利 用する流れを紹介する。

### 2.2.1 リガンドとレセプターファイルの保存

リガンドのみのファイルを pdb、yob 形式のいずれかで作業ディレクトリ内に保存する。本チュートリアルでは.yob 形式で保存する。「File」→「Save as」から「YASARA Object」を選択し、リガンド Object (5i3vL)を指定して保存する。ファイル名の末尾は必ず「\_ligand(.拡張子)」にする。

(例 5i3v\_ligand.yob)

続いて、レセプターのみのファイルを作業ディレクトリ内に保存する。pdb、yob、sceのいずれの形式でも構わないが、 結合ポケットを指定する場合は、SimCELLの情報も一緒に保存可能な sce 形式を選択する必要がある。本チュートリア ルでは.sce 形式で保存する。画面右側 HUD でリガンド Object (5i3vL)を右クリックし、「Delete」を実行して削除、レ セプターと SimCELL のみを残す。続いて、「File」→「Save as」から「YASARA Scene」を選択、ファイル名の接頭辞(prefix) 部分はリガンドファイルとそろえるようにし、末尾は必ず「\_receptor(.拡張子)」にする。

(例 5i3v\_receptor.sce)

# 2.2.2 ターゲット (MacroTarget) 設定

「Options」→「Macro&Movie」→「Set target」で、ターゲットを設定する。

作業ディレクトリを選択し、レセプターとリガンドのファイル名の共通(接頭辞)部分をターゲット名として設定する。 (例 C:¥Users¥username¥Desktop¥YASARA\_DATA¥tuto\_docking¥5i3v)

GUI から設定する場合、Remove チェックボックスの「file extension」,「from underscore」,「nothing」を利用可能。

#### 2.2.3 ドッキング実行

「Options」→「Macro&Movie」→「Play macro」でドッキングを実行する。「dock\_run.mcr」または「dock\_runensemble.mcr」 を選択する。前者では単一のレセプターのみでドッキングを行い、後者では側鎖の回転異性体(side-chain rotamers)を考 慮して数種のレセプターを自動で作成し、ドッキングを行う。本チュートリアルでは「dock\_run.mcr」を使用する。



Figure 2.4 ドッキングシミュレーションマクロ (dock\_run) の実行結果

#### 2.3 コマンドラインからマクロを実行する方法

最初に[方法②]の手順と同様にレセプター・リガンドの両ファイルを作成する。次に Windows であればコマンドプロン プト (Win キー+R キーでファイル名を指定して実行ダイアログを開き、名前に cmd を入力し OK ボタンをクリックする ことで起動可)、Linux であればターミナルプログラム (gnome-terminal など)を開き、次の手順に従いコマンドを入力、 Enter キーを押すことで実行することができる。

 YASARA インストールディレクトリ内の YASARA 実行ファイルを指定。 スペースを空け、テキストモード用オプション(-txt)を指定。

② スペースを空け、次に YASARA インストールディレクトリ内の mcr ディレクトリに格納されているマクロを指定。

③ スペースを空け、最後に MacroTarget を指定。
 (全体をダブルクォーテーション(")で囲み、ターゲットをシングルクォーテーション(')で囲む)。
 ※dock\_run.mcr を適当なディレクトリにコピー・編集する事で MacroTarget や各種パラメータの設定も可能。

実行例

(Windows) C:¥Users¥username¥Desktop¥yasara¥YASARA.exe -txt C:¥Users¥username¥Desktop¥yasara¥mcr¥dock\_run.mcr "MacroTarget='C:¥Users¥username¥Desktop¥YASARA\_DATA¥tuto\_docking¥5i3v"

(Linux) /home/username/yasara/yasara -txt /home/username/yasara/mcr/dock\_run.mcr "MacroTarget='/home/username/YASARA\_DATA/tuto\_docking/5i3v""

# 3. ドッキング結果の解析

# 3.1 ログファイル (マクロ使用時)

マクロを実行してドッキングを実行すると作業ディレクトリ内にログファイル(.log)が作成され、詳しいドッキング結果 を確認することができる。レセプター・リガンド間の結合エネルギー(Binding energy)が強いものから順に並べられており (値が大きい方が結合力が強い)、その他に解離定数や結合に関与するアミノ酸残基が記載されている。

また、ドッキング結果のクラスタリングも自動で行われ、その結果が続けて出力されている。

🗐 Siðulog - 火モ帳												
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルプ(H)				_								
Global docking result analysis				^								
25 VINA docking runs of the ligand object 2 to the receptor object 1 vielded the following results. sorted by binding energy [more positive energies indicate stronger binding, and negative energies mean no binding												
Run  Bind.energy[kcal/mol] Dissoc. constant [pM]  Contacting receptor residues												
001         000009.5690         0000000107105.2031         ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 VAL R 69 PRO R 70 TYR R 71 GLN R 73           002         000009.5090         0000000107105.2031         ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 VAL R 69 PRO R 70 TYR R 71 GLN R 73           003         000008.4440         00000000646347.3125         GLY R 34 SER R 35 SER R 86 VAL R 69 PRO R 70 TYR R 71 GLN R 73           004         000008.4440         0000000646347.3125         GLY R 34 SER R 35 SER R 86 VAL R 69 PRO R 70 TYR R 71 GLY R 74           005         000008.3560         000000078860.1875         ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 SER R 36 SAR R 87 VAL R 68 TYR R 71           006         0000008.3560         0000000078860.1875         ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 SER R 36 ASN R 37 VAL R 68 TYR R 71           006         0000008.3560         00000001572850.1875         ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 SER R 36 ASN R 37 VAL R 68 TYR R 71           007         000008.1100         0000000115777.0000         LEU R 30 ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 SER R 36 ASN R 37 VAL R 69           010         0000008.1100         0000000115772.0000         LEU R 30 ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 SER R 36 ASN R 37 VAL R 69           011         00000000125586.5000         LEU R 30 ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 SER 86 ASN R 37 VAL R 69           011         0000000002525134.5000         LEU R 30 ASP R 32 GLY R 34 SER R 35 SER 86 VAN R 37 VAL R 69           0000007.7860         000000002525	GLY R R R R R R R R R R R R R R R R R R R	274 275 275 275 276 2774 2771 2771 2771 2771 2771 2771 2771	LYSP TRPS LYSP LYSP LYSP LYSP LYSP LYSP LYSP LY									
After clustering the 25 runs, the following 7 distinct complex conformations were found: [They all differ by at least 5.0 A heavy atom RMSD]												
Clu  Bind.energy[kcal/mol] Dissoc. constant [pM]  Contacting receptor residues												
001         0000009.5000         00000000107107105.2031         ASP R 32 L/Y R 34 SER R 55 SER R 69 PRO R 70 TVR R 71 LLN R 73           002         000008.5030         000000001585651.8750         LEV R 34 SER R 55 SER R 56 SAR R 73 VAL R 69 TVR R 71 LLN R 73           003         0000007.7960         00000001528550.18750         LEV R 34 SER R 35 VAL R 85 SER R 35 VAL R 69 TVR R 71 LLN R 73           004         0000007.5280         00000001528551.8750         LEV R 34 SER R 35 VAL R 69 FVR 70 TVR R 71 LLN R 73           004         0000007.5280         00000001282851.8750         LEV R 34 SER R 35 VAL R 69 FVR 70 TVR R 71 LN R 73           005         0000007.8280         00000004224344.2000         LEV R 34 SER R 35 VAL R 68 FVR 70 TVR R 71 LN R 73           005         0000007.3180         0000000452844.0000         ASP R 32 L/Y R 34 SER R 35 SAR R 35 SAR R 35 VAL R 68 FVR 07 DT R 71 TVR 71 TVR 71 LN R 73           005         0000007.3180         0000000051527.5100         LEV R 80 SER R 35 VAL R 68 FVR 77 VAL R 68 FVR 77 UVR 71 LN R 73 LV 77 A           006         0000007.3180         0000000051527.5100         LEV R 81 A SER R 35 VAL R 69 FVR R 73 LV R 74           007         000007.3180         0000000051527.5100         LEV R 74 SER R 75 SER R 75 SER R 75 SER R 73 LV R 74	GLY R TRP R GLY R LYS R TRP R TYR F TRP F	₹74 ₹76 ₹74 ₹75 ₹76 ₹76 ₹76	LYS LYS TRP LYS TRP ASP									
While the table above lists the best binding energy in each cluster, it is sometimes helpful to also look at the energy spread [average and standard deviation], the dissociation constant has been recalculated from the average binding energy:												
Clu  Members Bind.energy spread [kcal/mol] Dissoc. constant [pM]												
001 007 000008.0459+-000000.7170 0000001265738.3992 002 003 000007.8120+-000000.4653 0000001878289.0600				Ļ								
<			>									

Figure 3.1 ドッキング log ファイル

### 3.2 マクロ dock\_play による解析

ドッキング結果を一覧する場合、「Option」→「Macro&Movie」→「Play macro」を選択してから、「dock\_play」を指定 することで、ドッキング結果を連続で確認できる。

「Proceed to cluster analysis」を選択すると、クラスター分類したものや、レセプター・リガンド間の相互作用(H-Bonds, Hydrophobic, Pi/Pi, Cation/Pi) について確認することができる。



Figure 3.2 「dock\_play」実行画面



Figure 3.3 「dock\_play」クラスター分類や相互作用の表示

#### 3.3 RMSD 計算

ドッキング解析で得られた結合ポーズと結晶構造のリガンド座標を比較するため、RMSD 値を計算することができる。 コマンドラインからドッキング解析を実施した場合は、YASARA GUI を起動しドッキング解析結果である YASARA Scene ファイルをロードする。これには、「File」→「Load」→「YASARA Scene」として "MacroTarget.sce"ファイルを指 定するか GUI 上に該当ファイルをドラッグ&ドロップする (本チュートリアルでは 5i3v.sce)。

続いて、「File」→「Load」→「PDB file from Internet」または「PDB file from local PDB」等から RMSD 計算対象の結晶 構造を読み込む (PDB file from Internet を実行済みの場合、ローカルディスク上に PDB ファイルが自動保存されている PDB ID に 5i3v を入力し、OK ボタンをクリックする)。

次に「Analyze」→「Align」→「Objects with MUSTANG」を選択し、source オブジェクト(動かしたい方、ここでは結 晶構造データ(5i3v))と target オブジェクト(動かしたくない方、ここではレセプター(Receptor))を指定し、アライメ ントを行う。

This function is prov Whisstock JC, Stud	ded by MUSTANG, pleas key PJ, Lesk AM (2006) F	e cite: Konagurthu AS, Proteins 64,559-574	Note that YASARA pe MUSTANG result, co	erforms some post-proces onsult the Align document	ssing of the initial ation for details.
equence	<u>N</u> ame	Belongs to or has	Sequence	<u>N</u> ame	<u>B</u> elongs to or has
<ul> <li> <sup> </sup></li></ul>	∰ 5i3v ∯ Ligand ∯ Receptor	<ul> <li>All</li> <li>Selected</li> <li>AminoAcid</li> <li>Protein</li> <li>Nucleotide</li> <li>NucAcid</li> <li>HetGroup</li> <li>Water</li> <li>Content in</li> </ul>	<ul> <li> <sup>★</sup>1 Receptor: </li> <li> <sup>★</sup>2 Ligand </li> <li> <sup>★</sup>4 5i3v </li> </ul>	<ul> <li> <sup>6</sup>/<sub>8</sub> 5i3v         <sup>6</sup>/<sub>8</sub> Ligand         <sup>6</sup>/<sub>8</sub> Receptor         <sup>6</sup> <sup>6</sup>/<sub>8</sub> <sup>6</sup>/<sub>8</sub></li></ul>	<ul> <li>All</li> <li>Selected</li> <li>AminoAcid</li> <li>Protein</li> <li>Nucleotide</li> <li>NucAcid</li> <li>HetGroup</li> <li>Water</li> </ul>
		Jecsti Heix V	State J	N <u>eg</u> ate name	P Secsti Heix

Figure 3.4 アライメント画面

その後、RMSD を計算する分子名を変更する(この例では、ドッキングリガンドを1、結晶構造のリガンドを0と設定)。



Figure 3.5 RMSD 計算対象分子(左;赤色が結晶構造)と分子名の変更例(右)

続いて、「Analyze」→「RMSD of」→「Molecules」を選択し、名前を変更した 2 分子を選んだ後、「Atom name」と「Atom alternate location indicator」チェックボックスを有効にし、OK ボタンをクリックするとコンソール上に RMSD の値が出力 される。

	ns presen	it in Doth sele	LUOIIS Dy I	natching the	
At <u>o</u> m name	✓ A	tom alternate	e location	indicator	
Residue <u>n</u> ame		esidue n <u>u</u> mbe	er 🔲	Molecule na <u>m</u>	<u>i</u> e
	1002		30.00	ale I	
Elip chemically	equivale	nt groups to r	ninimize R	MSD	
eturn RMSDs per	<u>O</u> bject	Molecule	<u>R</u> esidue	<u>A</u> tom	
	0	$\bigcirc$	0	0	
		ОК			

>RMSDMol 0,1,Match=AtomName+AltLoc,Flip=No,Unit=Mol Molecule 0 and Molecule 1 have 0.5107 A RMSD

Figure 3.6 RMSD 設定画面(上)と出力結果(下)

# 3.4 RMSD 計算(マクロ利用による複数分子の一括処理)

1 つのオブジェクト内に含まれる複数分子と参照用分子の RMSD 計算を一括処理する場合、次のようなマクロを利用する。テキストエディタを用いて次の内容の「calc\_rmsd.mcr」マクロファイルを作成し、「Options」→「Macro & Movie」→「Play macro」からこのファイルを指定し実行する。ダイアログが表示され、オブジェクト番号(またはオブジェクト名) と参照用分子名の入力を求められるので適宜入力し、OK ボタンをクリックすることで計算が行われる。

#
# A simple macro for renaming each molecule name
# and calculating RMSD with a reference molecule
#
targetobj="
refmol="
if targetobj==" or refmol=="
targetobj,refmol = ShowWin Type=TextInput,
Title="Calculate RMSD",
Text="Please enter a target object number and reference molecule name",
Text="Object Number for docked ligands",
Text="Molecule Name for Reference (e.g. 0)"
console off
first='A'
<pre>mollist() = ListMol Obj (targetobj)</pre>
for i=1 to count mollist
NameMol (mollist(i)),(chr (ord first+i-1))
RMSDMol (refmol), (mollist(i)),Match=AtomName,Unit=Mol
console open

Figure 3.7 calc\_rmsd マクロファイル

本マクロを実行するとまず指定オブジェクトの分子名がリネームされ(A,B,C...と順次変更)、これら分子と参照用分子との RMSD 値がコンソール上に順次出力される(本マクロでは最大で 62 の分子を一括して計算可能)。参照用分子に対しては重複がないよう分子名を指定する(この例では 0 を指定)。

YAS	ARA Scen	e C:¥Users¥TT¥Deskt	op¥yasara_data	¥tutorial_d	ocking¥5i3v.s	ce										<u>_</u>		×
<u>F</u> ile	<u>E</u> dit	<b>Simulation</b>	<u>A</u> nalyze	<u>V</u> iew	Effe <u>c</u> ts	<u>Options</u>	<u>W</u> indow	<u>H</u> elp	0		0		) 🔁 🕲		۵ 🧕	)		
ATOM	PROP	ERTIES													SC	ENE C	ONTE	NT
Number Name: Elemen Occupa Residu Object	t: incy: ie: ::	% BFactor:										<u>0</u>	2 Ligand Mol A Mol B Mol C Mol C Mol D Mol E	me	Vis Yes Yes No No No No	Act Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes	Atom 5767 5767 5829 5891 5953 6015	^
Positi	.on: X Y Z	= 000000.0000 = 000000.0000 = 000000.0000						2	4				Mol F Mol G Mol H Mol I		No No No No	Yes Yes Yes Yes	6077 6139 6201 6263	
Speed: Tot	X = 0 Y = 0 Z = 0 al = 0	0000000000 m/s 0000000000 m/s 0000000000 m/s		6						2			Mol J Mol K Mol L Mol M		No No No	Yes Yes Yes Yes	6325 6387 6449 6511	
Active Forces Tot	e X = 0 :Y = 0 Z = 0 al = 0	000000000 fN 0000000000 fN 000000000 fN 000000000 fN			J			Z					Mol N Mol O Mol P Mol Q Mol R		NO NO NO NO NO	Yes Yes Yes Yes Yes Yes	6573 6635 6697 6759 6821 6883	
Bonds: 1) Typ Len 2) Typ Len 3) Typ Len 4) Typ Len	e to gth gth gth gth gth gth		) ) )			Y							Mol T Mol U Mol V Mol V Mol X SimCEL 4 5i3v Mol A	L	No No No No No Yes No	Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes	6945 7007 7069 7131 7193 7255 7317 7317	
Markeo Markeo Markeo	Dista Angle Diheo	nce: : ral:	- Å - o - o					7			5		Mol A Mol O Mol A		Yes No	Yes Yes Yes	10234 10237 10267	~
60 H	Iz Me	m 98 Sys L	have 6 130		0	YAY	SARA S	lanch	WC .	0	11		Sim Off	Obj	all	1072	26 Ato	ms
Molecul	e 0 an	d Molecule W	have 5 199		D													
Molecul	e 0 an	d Molecule X	have 6 637		n													
>_	e o an	a notecute i	nave 0.057	5 A MIS														

Figure 3.8 calc\_rmsd マクロ実行結果

マクロファイル「calc\_rmsd.mcr」は次の URL よりダウンロードすることが出来る。

YASARA マクロファイル集 https://www.affinity-science.com/yasara\_macro.html

以上